

銀座能楽堂で初舞台

去る5月10日、東京の銀座ソニー通りに面した銀座能楽堂にて、佐渡市泉出身の能楽師川上忠志さん



のオリジナル作品能「朱鷺」が素謡として上演されました。これは川上さんの主宰する伍君子会50回を記念したものです。その舞台に、首都圏佐渡連合会文化芸能部会の「朱鷺謡の会」有志7名が連吟「羽衣」「胡蝶」「鶴亀」のキリを謡って賛助出演させていただきました。「佐渡出身者ならば、謡の一番も謡えなきゃ・・・」「おじいさんがお風呂で謡をうなっているのを聴いて育った」「孫の結婚式で『高砂』を謡えるようになりたい」と動機はいろいろ。首都圏佐渡出身者で「朱鷺謡の会」を2年前に結成。会員は28名。その初めての発表会も兼ねていました。出演が決まってからは正座や挨拶の仕方も含めて先生宅で特別稽古修行。1回5時間を5日間、紋付・袴などの衣装は、佐渡の実家や親戚・知人のタンスから、取り寄せたものがほとんど。祖父等の昔の紋付袴の借用だから袖や裾が短いのを気にしながら、どうにか間に合わせました。佐渡の能の文化を東京で引き継ぐ、佐渡の能舞台に立てるようになるという、気持ちだけは高揚しています。(文責：坂田)

今年で5回目となる、離島地域と都市との交流促進イベントが、5月3日から5日にかけて大阪会場で開催されました。離島関係は、東京都小笠原諸島をはじめ、三重県、島根県、山口県、愛媛県、長崎県、鹿児島県、佐渡島から出展しました。佐渡ブースは、毎年好評の7社からのお酒と西三川リンゴジュース、そしてトキファンクラブ・定住アンケート等により、初日はオープンとともに大勢の来場者が押しかけました。お酒やジュースの試飲、そしてプレゼント品(佐渡海洋深層水ペットボトル、金運を招く小判、トキ風船、トキ折り紙等)目当てに、次々人だかりとなりました。



高野市長も参加して、ミニステージでの佐渡島紹介でトキの放鳥や、世界文化遺産登録運動、環境の島佐渡をPRしました。その後バトンを受けてジャンケンゲームやトキクイズで盛り上げました。準備から期間中は、佐渡汽船大阪案内所長、大阪在住佐渡高校OB(延べ7人)を中心に、県観光協会大阪観光センター、新潟交通大阪事務所、佐渡市トキ共生・環境課、企画振興課、島暮らしサポーターからもご協力をいただき、佐渡への思いを込めて積極的に対応いただきました。

「佐渡はいつ頃の時期に行ったら良いの」「一度は行ってみたい」との相談も多く、今後につなげる期待をしまし、他の島の人たちとも交流ができました。関係の島々の活性化と発展を願い、佐渡のためにお手伝いをいただきました方々に心から感謝をし、帰途につきました。

(新潟県離島振興協議会支部事務局)

随想

ゆめ飛行

佐渡市長 高野宏一郎

No 23

平成16年3月に佐渡市が合併し、同年7月1日付けで初代の助役として就任されて大活躍された大竹幸一副市長が退任されました。

他に例を見ない大合併の後、新潟県との太いパイプと、今後の福祉医療の重要性から、県の医薬国保課長の経験を生かしてとお願いしたものです。

就任まもなく台風災害があり、壊滅的な農業被害と相川海岸を中心に漁港船舶に被害を受けました。同年の中越地震では、観光客のキャンセルに佐渡観光は打ちのめされました。さらに昨年のの中越沖地震では原発被害が大きく報じられたこともあって先の地震にも増して被害が大きく、風評対策も終わらないうちに今年2月の風浪被害対策と、八面六臂の活躍を頂きました。災害対策に追われた4年間でしたが、県との強い連携プレーで専門学校誘致やトキ放鳥の準備、トライアスロン、ロングライドを成功させ、佐渡病院移転新築に深く関わられて今後の市立両病院の方向性もみえてきたように思います。

率直で気さくなお人柄で島中を魅了されましたが、お聞きしますと今後のために相川春日町に小さな住宅を借りられたとのこと、美しい奥様と若かりしころの相川勤務を思い出しながら佐渡に住むのが願いだとか、今後とも佐渡の応援団を引き受けていただけるそうで、うれしい事です。始まったばかりの佐渡準市民制度にも加入していただけることになりました。いつまでも健康でお元気であることを島民挙げてお祈りしています。



(題字 高野宏一郎)